

熊本県立菊池農業高等学校 令和4年度（2022年度）学校評価表

1 学校教育目標

『生徒が輝き、地域をきらめかせる菊農教育の創造と実践』

「熊本の心」を基本理念とし、夢の懸け橋教育プラン、県立高等学校における教育指導の重点、学校安全・安心推進課取組の方向、体育保健課取組の方向、人権教育の推進に当たって、特別支援教育取組の方向、社会教育課取組の方向などを指針とし、豊かな人間性と社会の変化に主体的に対応できる生徒の育成を目指し、地域とともに活気に満ち溢れた学校づくりを目指す。

2 本年度の重点目標

『感動、感謝、思いやり、夢を育み未来を創る菊農生』～あらゆる可能性を見つめ一歩前へ～

- 1 安全で安心な魅力ある学校づくりの実践 2 学習指導の充実 3 人権教育の充実
4 生徒指導の充実 5 進路指導の充実 6 農業教委育の充実 7 特別活動の充実

3 自己評価総括表

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	目指す生徒像の実現のために学校目標の周知を図るとともに、教育活動の着実な実践による活性化を図る。	学校の教育目標及び本年度の重点目標の周知を図る。	・全職員が共通認識として実践する。 ・保護者、生徒の学校教育目標認知度を保護者80%以上、生徒70%以上に高める。	・職員会議、研修等で常時啓発する。 ・学校ホームページ、生徒総会、育友会総会、広報誌等を通じて啓発を図る。	B	・教育目標の認知度は生徒53%、保護者75%となった。広報活動にはSNSを利用し向上が見られた。次年度は、日頃の学習活動や学校行事等をとおして更に認知度を上げる取組みを推進したい。
		社会で生き抜く力を持った生徒を育成する。併せて、生徒の自己肯定感を高める。	・基本的生活習慣を身に付け、夢の実現に向かって、挑戦する生徒の育成。 ・本校における通級指導を充実させ、全職員が理解し実践力を高める。	・基礎学力の向上を図る。 ・通級指導に関する職員研修等をとおして、全職員への周知と共通認識を図る。	A	・朝読書の実施は、落ち着いた授業をスタートさせることに繋がっている。 ・「通級による指導」は十分な成果をあげている。生徒の52%（昨年度45%）、保護者の69%（昨年度52%）と認知度が向上している。
	校長を中心とした指導体制のもと学校教育目標を実現する。	学校教育目標実現に向けた職員の意思統一と組織の活性化を図る。	・職員研修の充実と各部の連携推進及び学科間の協力体制を促進する。 ・新入生充足率80%以上に向けた取組を行う。	・生徒理解に係る職員研修を充実させる（学期に1～2回）。 ・生徒の夢の実現を達成させる為の指導体制を強化する。	A	・生徒支援、生徒指導をスムーズに実施するための職員研修、生徒理解・特別支援教育推進委員会の開催、関係者による教科連絡会により、情報の共有を図り継続的な支援ができた。 ・県下全中学校へ訪問し学校パンフレットの送付を行った。
		学校情報を分かりやすい内容で定期的に発信する。	・ホームページ掲載情報をタイムリーに更新する。（特に、新着情報）	・ホームページのシステムを職員に周知し、各行事の情報発信を学科毎、タイムリーに更新する。	A	・ホームページと「安全・安心メール」システムを活用することで、緊急連絡や行事連絡（各種行事の事前連絡等）等、旬な情報を迅速に伝達することができた。

		業務改善,働き方改革を推進して,長時間労働の解消を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 主任・主事・部長の意識改革を促し,トップダウンだけではなく,ボトムアップも意識しながら,業務改善,働き方改革を実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週水曜日を18時までの完全退庁を実現する等,職場の超過勤務時間年平均(1人当)360時間,月30時間以内を実現する。 主任主事部長を中心に業務改善に向けての取組を推進し,年度末反省にて前年度より改善されたと職員が体感する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用による業務の効率化を推進した。1月末時点で年間超過勤務時間の職員一人当たりの平均時間は30時間である。職員の意識は年々高まっている。年休取得に関しては,申請しやすい職場の環境作りに努めることができていた。
学力向上	生徒一人ひとりを理解し,授業の工夫・改善と個別指導を徹底(学びのUD化)する。	生徒の学習意欲を高め,もっと知りたくなる授業を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が「わかる・できる・もっと知りたい」を実感する授業を展開する。 学びのUD化に努める。 授業実施者がICTを駆使した授業展開ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育環境の工夫,ルールの明確化,視覚的支援の充実を図る。 ICT機器に関する職員研修を充実させ,授業でのICT機器活用率を高める。 コロナ禍に対応したオンラインによる学習支援を充実させる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 本校のICT支援員に機器の使い方等を学ぶ教職員も昨年より増加した。また,ICT機器を活用した授業も多くなり,他校のICT機器を活用した研究授業や公開授業を参考に教師一人ひとりが自己研鑽に努めている。
		習熟度に合わせた授業を展開し,わかる喜びを感じる授業を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別に授業内容を組立て,「基礎学力」および「生きる力」を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 欠点保持者及び希望する生徒等に対し,学びなおしを行う場を定期考査前に設定する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 中学校既習内容について学びなおしを行う場面の時間を増やし,基礎基本の定着に努めた。
	教職員と生徒が一体となった授業(公開授業の実施,及びグループ学習の導入)を実施する。	生徒の興味関心を引き付ける授業の展開を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 学科・教科別に研究授業(アクティブラーニングを重視した授業ICTを活用し,かつUD化を意識した授業の展開)による資質向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間をとおして,統一したテーマをもとに,各学科,教科ごとに研究授業を実施し,授業改善に生かす。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 1,2学期をとおし,「学びのUD化」,「ICT活用」をテーマに4名の先生方が研究授業を行った。合評会を各教科で行い,積極的な授業改善ができた。
			<ul style="list-style-type: none"> 授業の公開による教職員の授業力及び探究心の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員相互の「学び合い期間」を設定し,授業見学と授業評価を実施しスキルアップに繋げる。 公開授業週間を行い,外部からの見学者に率直な意見を求め,授業改善に生かす。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業の様子を動画撮影し,教職員がいつでも視聴できるようにし,教職員相互の「学び合い期間」を設定した。公開授業週間を予定したがコロナ感染の状況で今年は中止した。
キャリア教育(進路指導)	キャリア教育の充実	進路意識の高揚 体験活動の充実 進路情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> 農業経営者育成を主とした職業意識の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> 先進農家視察や現場実習を複数回実施 進路ガイダンス等を年1回以上実施 オンラインも活用した進路情報閲覧環境の改善 	B	<ul style="list-style-type: none"> 先進地視察や現場実習は1回程度実施した。 進路ガイダンスは各学年1回以上実施した。 オンラインはクロムブックを活用したが今後さらに充実させたい。
	就職指導の充実	職業意識の高揚 就職内定率の向上 早期離職防止	<ul style="list-style-type: none"> キャリアサポーターの活用 希望就職内定率100% 早期離職ゼロを目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 進路適性検査を年1回以上実施 キャリアサポーター面談の実施 ガイダンスや内定者指導を実施 企業の情報収集 配慮を要する生徒の支援におけるハローワークとの連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路適性検査は1年生2回,2年生1回実施。 キャリアサポーター面談は積極的に実施した。 内定後は新社会人セミナーや主事講話を実施。 ハローワークや外部機関との連携は密に行うことができた。

	進学指導の充実	多様な進路希望実現に向けた支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・大学志望者の早期の把握と指導の開始 ・農業大学校進学10名以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査を年2回実施 ・大学志望者の主事による面談の実施と、所属学科と連携した指導の早期開始 ・農業大学校説明会の実施と指導の早期開始 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査は予定通り2回実施した。 ・大学志望者への面談や指導は早期から実施できた。 ・農大の説明会は実施できなかったが指導は早期から実施できた。農大進学は6名であった。
生徒指導	豊かな心を育む指導の実践に取り組む。	生徒会、農業クラブを中心とした自主的活動による活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会、農業クラブを中心とした生徒の自主活動や部活動、ボランティア・各種委員会活動の促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒企画による各種行事や委員会活動をととした自治活動力の育成を図る。 ・コロナ禍での限りあるボランティア活動への参加を推進し、社会に貢献する心を育てる。 ・部活動の活性化に努め、加入率50%以上にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ規制が徐々に緩和され、教育活動にも生徒ができることの幅が増えた。昨年度比で、学校行事に積極的に参加したと答えた生徒は0.5、保護者・教職員も0.1上昇した。 ・昨年度より多くの生徒が校外ボランティアに参加し、活躍した。 ・部活動の年度当初加入率は46.7%だが、年間を通して継続的に活動する部はごく限られている。地域移行など部活動の在り方が見直されているなか、学校の特色や活動の場の確保も考えつつ、本校としての在り方を見直していかなければならないと考える。
		農業教育における動植物の育成管理を通して豊かな心の醸成と、中途退学者の減少を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間との協力及び動植物の育成管理を通して責任感を育成すると共に、他者や周囲に配慮ができる心の醸成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と協力して作業をすることで責任と周への思いやりの心を育てる。 ・動植物との触れ合いを通して、命を大切にしている豊かな心と互いに協力し、互いを尊重する心を育成する。 ・上記の方策について、学校評価アンケートにて生徒の満足度90%以上とする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が農業実習に真摯に取り組み、仲間との協働や動植物の管理を通して、命の大切さ、互いを認め、思いやる心を育てている。 ・本校に入学して(させて)よかったと答えた生徒、保護者は昨年度比でともに0.1上昇した。 ・コミュニケーション不足によってトラブルやいじめに発展するケースもあるが、担任を中心に細やかに対応してきた。
生徒指導	規範意識を育むと全教徹底組む。	基本的な生活習慣の確立と意欲の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ち良い挨拶、制服の着こなし、時間を守る、貴重品の自己管理等、社会人となるための基礎基本を徹底指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登校指導のなかで行う挨拶・時間厳守・身だしなみに関する指導を通して、生徒の規範意識を高める。 ・身だしなみ(服装・頭髪)については、社会情勢に応じた指導体制を整える等、全職員で統一した共通認識を持つ。 ・貴重品袋を活用した盗難防止に努めると共に、貴重品の自己管理の徹底を啓発する。 ・生徒、保護者向けのSNS教育を実施し、トラブルの未然防止に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の規律を守り、基本的な生活習慣が身に付いていると答えた生徒は昨年度比で0.1上昇している。 ・昨年度末に生徒・保護者・職員すべてで校則を見直し運用したが、生徒・職員ともに戸惑いもあった。検討を重ね、より良い学校づくりに努めたい。 ・貴重品の盗難はなかったが、その他の摂取や強要など指導が数件あった。自他の権利について学び直しの必要を感じた。 ・SNSによる大きな生徒間トラブルはなかったが、端末の利用マナー、モラルの面での学習が必要である。3月に安全教室を実施する予定である。

		交通事故や犯罪等に遭わないために、意識の高揚を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・交通ルールの遵守や交通事故防止等をはじめとする安全教育指導を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員による登校指導および全校集会を月1回実施し、交通安全意識を高める。 ・通学方法別での交通安全指導、外部講師による交通講話を通して交通安全に関する知識と技術の向上を図り、交通事故防止につなげる。 ・防犯対策として、二重ロック点検・施錠指導を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の通学方法別集会、2学期の交通安全教育LHR、月1回の一斉登校指導及び全校集会により、交通安全意識向上を図った。自転車二重ロック点検や全校集会の進行は交通委員会でを行い、生徒の活躍の場ともなった。 ・登下校中の自転車・原付事故は本年度も多く、それぞれの取り組みがより効果的なものとなるよう内容を点検していきたい。
人権教育の推進	豊かな人権感覚をもつ生徒の育成に取り組む。	相手の立場や心情を理解できる生徒の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・人権感覚を高め、心豊かな生徒の育成に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・LHRをはじめ様々な授業を通して人権感覚を育む。 ・人権講話や人権講演、平和登校日など、機会を捉えて人権の大切さを伝える。 	A	外部講師による人権教育講演会で、水俣病問題の歴史、現在の水俣の姿について学ぶ機会を持つことで、人権感覚を高めることができた。
		職員の人権感覚を豊かにする研修を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎学期に配慮を要する生徒等に関する研修を実施することで生徒に対する人権感覚を磨く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進委員会を定期的に行い、共通認識と共通実践を図る。 ・学期に1～2回の生徒理解研修を実施し、全職員で課題を抱える生徒の状況を把握し、共通理解を図る。 	B	年度初めの生徒理解研修をはじめ、研修を適宜行うことで、生徒の特性や生活背景を全職員で共有し、生徒への理解を深め、生徒の人権を大切にすることを指導ができるように努めた。
	命を大切にすることを心で育成に取り組む。	専門教育を通して、命を大切にすることを心で育成に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や他者の命を大切にすることのできる生徒を育てる。本校の人権教育が相手の立場に立つ生徒の育成に繋がっていると実感する生徒を、80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権委員会を中心に「いじめ撲滅宣言」の読み上げ、クラス掲示を行う等、感謝の心と他者を認める心を意識させる。 	B	「心のきずなを深める」ための標語作品募集に全生徒で取り組み、生徒一人ひとりが他者を意識し、尊重する大切さについて考える機会を作った。
いじめの防止等	命を大切にしない、いじめ防止に取り組む生徒の育成に取り組む。	生命尊重の意識と自尊感情の確立を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・他者を思いやる心の醸成だけではなく、自己肯定感を高めることができる生徒を育てる。 ・本校はいじめの防止をはじめ、人権教育の姿勢を基本に生徒への対応が行われていると実感する生徒を、80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・LHRや日常の授業・実習で、命を育て、命をいただくことで生かされていることを学ぶ。 ・特に、専門教育を通して、他者を思いやる心、協働する心を育成する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は各学科の学習を通して専門性を高め、自主性や責任感を培っている。専門教科において、さらに、自己有用感を高める工夫を凝らしていきたい。 ・気になることをその都度職員に相談していると答えた生徒は0.6、保護者は0.1昨年度比で上昇しており、本校職員が生徒・保護者に丁寧な対応に心がけてきたことがうかがえる。
		いじめ防止に積極的に取り組むことのできる生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの未然防止や早期発見、SNS等のトラブル防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・LHR等で人権問題を取り上げ、いじめや差別をなくす生徒の育成と正しい言動ができる生徒の指導を行う。 ・日頃から担任を中心に個人面談の機会を設けるなど、生徒の日頃の悩みを把握し 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は家庭訪問、2年生は二者面談、3年生は三者面談を毎年実施しており、担任による面談の機会は多く、それがいじめの未然防止につながっている。 ・また、アンケートによるいじめの実態把握とそれに基づく個人面談を各学期に実施し、その後担当組織

				いじめの未然防止、早期の発見に努める。併せて、寮生のメンタルケアを計画的に実施する。		で情報共有を図ることで、いじめの早期発見と組織的対応につなげている。発見した生徒間のトラブルやいじめ問題を年度内に解決することができた。
専門教育	地域と連携した農業教育の推進に取組む。	スマート農業・GAP教育等を通して、地域と連携した農業教育の推進に取り組み、農業経営者を育成する。	・外部講師等を活用して、就農教育の推進と地域に開かれた農場の展開に努める。	・農場を地域に開かれた学校の拠点とし、農業の新しい技術や情報を校外に積極的に発信する。 ・5年後を見据えた農場改革をスタートさせる。	B	・農場規模の適正化、農場経営等の課題も多い。 ・JA菊池まんまキッズスクール、くまもと農業フェア、キクロス祭り等多くのイベントにて学校PRができた。 ・県版GAPの取得によって衛生面に配慮した出荷調整、安心・安全な労務管理等につながった。
		農業教育により自信と誇りを持った農業者と関係者を育成する。	・農場を生徒の学習発表の場と位置づけ、農業教育に対する自信と誇りを育む。	・学習成果を積極的に発表し、身につけた専門性を将来に活かす進路指導を実践していく。 ・蒼生会(同窓会)等、優秀な農業経営者との交流を深め、農業に夢を持たせる。	A	・即就農者が2名、農業法人や農家等への雇用就農も増加傾向にある。 ・農業鑑定で全国大会優秀賞を受賞等、農業クラブの活性化に繋がった。 ・資格取得農業技術検定において2級2名合格、2年生53名が受験した第2回では合格率が全国平均を上回った。
環境教育	環境保全活動や環境問題に積極的に取組む。	学校版環境ISOに取り組みと共に、農業を通して環境整備に意欲的に取り組む態度を育成する。	・環境にやさしい農業を実践し、環境保全や環境問題への関心を高め、意識的に取り組む態度を育てる。	・学校版ISOの認定校として、校内外のクリーン活動を更に充実させる。 ・地域(主に管内の公的機関を中心に)を含めた花いっぱい運動を展開する。	B	・校内の美化を中心に年3回クリーン活動を行うことができた。地域での実施は今年度行うことができなかったが校内においては花壇を中心に花いっぱい運動を展開できた。
		美しい学校づくりをテーマに環境美化活動に取り組む。	・環境美化活動を実践し、美しい環境の中で豊かな感性を育む。	・美化コンクールを実施する。 ・美化委員を中心に学校周辺の美化活動を年5~6回行う。 ・ゴミの分別を更に進め、環境に優しい生徒を育成する。	B	・美化委員が中心となり美化コンクールと校内の美化活動を毎学期行った結果、環境美化への意識が高まった。ゴミの分別については職員・生徒へ協力を求めた結果、以前より良くなってきた。
地域連携(CS)	育友会との積極的な連携・協力に取り組む。	円滑な学校運営のために情報提供に努める。	・保護者へ学校行事や生徒の様子等の情報提供に努め、本校への理解と協力を得る。	・年3回の育友会会報作成等に協力し、本校のPRに努める。 ・ホームページや安全安心メールを活用し、育友会活動の状況や、学校行事の周知徹底に努める。	B	・年3回の会報は発行でき、保護者に学校や育友会活動についてお知らせできた。 ・ホームページに育友会のコーナーを作ってもらい活動状況や各種活動への案内、募集を行うことができた。
		PTA活動のさらなる活性化を図る。	・学校行事への保護者の出席率向上を図る。 ・規約の見直しや、組織改編等を検討し、効率的、有意義な育友会活動を目指す。	・保護者への迅速な情報提供に努め、保護者と学校の協働関係を図る。 ・クラス役員等のスリム化、役割の検討で、負担感なく参加しやすい活動を作り上げる。	A	・本年度は、規約を改正し、クラス役員のスリム化を行った。育友会活動については、係ではなく、育友会会員全体へのボランティアを呼びかけることになったが、美化作業への参加者は60名を超える参加があった。

<p>学校運営協議会を通し、地域と連携協力体制を確立する。</p>	<p>自主的に学び、考え、行動できる生徒の育成に努める。</p>	<p>・地域の活動をとおり、ボランティア活動に参加するとともに、地域住民とのコミュニケーションを深める。 ・総合型コミュニティスクールの充実に向けた取組を図る。</p>	<p>・学校行事、農産物販売情報等をホームページ、広報誌等で情報発信し、地域住民の来校のきっかけとする。 ・総合型コミュニティスクールの充実に向けて、関係者との協力体制を強化する。</p>	<p>A</p>	<p>・菊農フェスタを開催し、農産物、食品加工品の販売は大盛況であった。 ・地域、行政機関からの意見・アドバイスをいただき、学校教育に対する地域との連携を強化することができた。</p>
-----------------------------------	----------------------------------	--	--	----------	--

4 学校関係者評価

農業高校は、生き物を扱っているため、豊かな人間性が育まれる。農業高校は、農業をアピールして進路指導につながればいいのではないかと。以前に比べ、すごく生徒が良くなった。生徒アンケートではほとんどの項目で評価が上がっている。保護者より入学させて良かったとの評価も上がっており素晴らしいと感じている。

菊農で農を学んだ卒業生は、後継者にならなくても、農の理解者となって地域を支えてくれる。そういう人材を育成していただきたい。

ICT教育は非常に重要度が高い。これからは、このICTに力を入れ、先取りして取り組んでいくべきである。このことにより、生徒募集につながると考える。

多様な学科において、それぞれが特色を活かし魅力ある学校づくりを行ってほしい。対外的に情報をリリースすることに力を入れてほしい。いろんなことを動めていく上での困難にとっても対応されている。職員生徒が丸となったの取り組みを今後も行って欲しい。

5 総合評価

学校教育目標や本年度の重点目標の実現のために全職員で取り組む事ができた。

学習用コンピュータの一人一台端末配付にとめない、授業での活用を推進した。本年度より新設した情報支援部が職員研修を企画実施し、授業での活用率が高まってきている。ソフトウェアを使用した双方向データ通信による生徒と学校とのコミュニケーションを多くの職員が使用できるようになり、授業のICT活用を柱とした授業改善の取組が浸透してきており、生徒の授業評価、職員の自己評価ともに評価が上がった。

進路指導は学年毎に計画的なキャリア教育を推進する事で、生徒の進路目標に対応した指導ができた。就職に関しては就職困難な生徒への支援を関係機関と連携し行った。進学指導に関しては、鹿児島大学1名、東海大3名、酪農学園大1名、農業大学校は6名輩出することができた。

農業自営における即就農者が2名、農業法人や農家等への雇用就農も年々増加傾向にある。就農支援会議、就農教育推進校事業、愛知県農業関係高校との交流会、卒業生講話等の就農支援により農業経営者、関連産業従事者の増加に直結する取組みができた。

通級による指導（LS：ライフスキル）本年度は、3年生・4名、2年生・3名の計7名が受講。LSの授業を楽しみにしており、通常の学級では出せない思いや感情を表現できることで、自己発見や自己解放につながり変化や成長も見ることができた。体育祭やロードレース大会は感染対策を講じて実施することができた。菊農フェスティバルでは生徒の主体的な活動が見られ、地域へ学習成果を発信することができた。

いじめ防止や人権教育については生徒理解のための職員研修等を行い、配慮を必要とする生徒に関しての共通理解に努めた。生徒が抱える課題も複雑化してきているなか、県教委や外部専門家と連携し個別に対応することができた。

職員会議等を削減、ICT活用による業務の効率化を推進した。勤務超過時間は昨年度より削減できた。

6 次年度への課題・改善方策

スクールミッションやKSHは高校の魅力化を図り、生徒募集に繋げる目標がある。その実現に向けて本校の特色を生かした取組みを推進していく。

ICT活用した授業形態に大きく変革していくなかで、学習活動を効果的にするために職員のICT活用能力を向上させる。

農場各部門において、生徒の実情や生徒数に応じて、規模の縮小や管理の在り方を見直し、働き方改革の推進も含め、教育課程や生徒数に応じた農場規模を検討していかなければならない。施設・設備の整備や農場でのWi-Fi整備やスマート農業の導入も実現したい。

課題である規範意識の醸成については、全職員の共通認識のもと、学校生活全般において積極的に生徒と関わり、組織的に課題解決に向けて取り組みたい。

学校の取組や生徒の活動等、魅力発信を更に強化し、地域に信頼される学校づくりに努める。

職員負担を軽減し、校務の効率化、情報の共有化の推進、職場の環境整備を図りたい。